



平成27年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2015/5/1 現在

【証券分析とポートフォリオ・マネジメント】

第1問（15点）

問1 B 問2 C 問3 B 問4 B 問5 A 問6 D 問7 B 問8 A
問9 D 問10 C 問11 A 問12 C 問13 A 問14 C 問15 D

第2問（30点）

I

問1 A 問2 B 問3 D 問4 C 問5 C 問6 B

II

問1 D 問2 D 問3 A 問4 E 問5 B

III

問1 D 問2 B 問3 C 問4 D 問5 A

第3問（30点）

I

問1 D 問2 A 問3 D 問4 C 問5 A 問6 C 問7 C 問8 B

II

問1 D 問2 B

III

問1 B 問2 C 問3 E 問4 A 問5 D

第4問（35点）

I

問1 A 問2 C 問3 C 問4 D 問5 B 問6 C 問7 A

II

問1 C 問2 E 問3 D 問4 C 問5 B 問6 C

III

問1 D 問2 B 問3 A 問4 C 問5 A

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第5問(30点)

I

問1 A 問2 C 問3 D 問4 E 問5 C 問6 D

II

問1 A 問2 A 問3 B 問4 A 問5 C 問6 B 問7 B 問8 D
問9 D

第6問(40点)

I

問1 C 問2 C 問3 B 問4 B 問5 D

II

問1 E 問2 B 問3 A 問4 D 問5 D

III

問1 B 問2 E 問3 C 問4 D 問5 A 問6 D

IV

問1 B 問2 A 問3 D 問4 B

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2015 証券アナリスト 1 次試験（春）

「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」

過去 4 回の問題数・配点は以下の通り。

平成 25 年（秋）～平成 27 年（春）

問 題	分 野	平成 25 年 (秋)	平成 26 年 (春)	平成 26 年 (秋)	平成 27 年 (春)
第 1 問	日本の証券市場	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)
第 2 問	企業のファンダメンタル分析	16 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	16 問 (30 点)
第 3 問	株式分析	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 4 問	債券分析	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)
第 5 問	デリバティブ分析	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 6 問	ポートフォリオ・マネジメント	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)
合 計		99 問 (180 点)	98 問 (180 点)	98 問 (180 点)	99 問 (180 点)

ここしばらく、出題形式は問題数 98~99 問、配点は全く同じ。各大問の内容に大きな変化はなく、あらゆる分野から一通り万遍なく出題され、難易度も概ね同じレベルである。

今回の特徴を敢えて挙げると、「リスクニュートラル・プライシング」が姿を消したこと。この「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」のみならず、「経済」や「財務分析」でも全く出題されておらず、これは変化と言えれば大きな変化だろう。リスクニュートラル・プライシングはファイナンス、とりわけデリバティブでは非常に重要で、かつきちんと理解しようとするとなかなか非常に難しい。けれどもいざ試験問題を解く段になると、わかったようなわからないような計算公式で機械的に処理できてしまうため、わかっていようがいなかろうが受験者にとってはむしろ得点源になっていた観がある。出題趣旨や出題パターンそのものが見直されているのかもしれない。

平成 26 年(春)・(秋)に続いて、第 6 問「ポートフォリオ・マネジメント」に連続複利の計算問題がまた出た（セクション I・問 3）。今回は 5 年間の対数リターンが数値で与えられていたので、関数電卓を使わなくても計算可能だった。本来は対数や連続複利の概念をかなり正確に理解しておく必要のある問題のつくりなのだが、計算にあたっては年率換算を直感とフィーリングで適当にやった人の勝ちだったように思う。

以上
TAC 証券アナリスト講師室